

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	高知県立大学	申請大学長名	南 裕子
申請類型	複合領域型(安全安心)	プログラム責任者名	野嶋 佐由美
整理番号	M02	プログラムコーディネーター名	山田 覚
プログラム名	災害看護グローバルリーダー養成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムの目的は、他の近接学問と相互に関連・連携しつつ、学術の理論および応用について産学官を視野に入れた研究を行い、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄与することである。また、その目標は、日本ならびに世界で求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる高度な実践能力かつ研究能力を兼ね備え、国際的・学際的指導力を発揮するグローバルリーダーを養成することである。

本プログラムの特徴は、5 大学院の蓄積してきた資源を共有し、各大学院研究科に共同災害看護学専攻という共同教育課程を設置し、「災害看護グローバルリーダー(DNGL)養成プログラム」を策定し、共同責任体制で一貫した教育を行いつつ、各大学院はそれぞれの特色をさらに強化していくこと、および国内外とのインターンシップの実施やモデル事業提案を義務づけることである。

本プログラムによる大学院教育改革は、個々の大学院教育が向上することに加えて、本プログラムがモデルとなり、その成果をその他の大学院と広く共有することで、我が国全体の博士課程の教育の質の向上に繋がる。さらに大学院博士課程における災害看護領域の教育モデルを世界に向けて発信することになり、災害多発国日本が全世界に対して先導しうる役割の一助を担うことになる。

2. プログラムの進捗状況

本年度の具体的な事業活動として、共同災害看護学専攻設置に向けての準備のほか、以下の 8 つを計画していた。①共同災害看護学専攻設置に向けて、学長会議、共同教育課程協議会、教育課程委員会、管理運営委員会、教育研究・開発協議会などを設置するとともに、プログラムの円滑な運営を行う。②災害看護グローバルリーダー養成プログラム管理センターの設置と学際的実験教育の準備を行う。③センターおよび各大学で災害看護教育に関する研究教育環境の準備及び学際的実験教育の準備を行う。④災害看護シミュレーションラボを設置し、学生のための教育環境を整え、教育方法を開発する。⑤5 大学共同 IT ネットワーク整備と遠隔会議環境等の開発を行う。⑥国際的なネットワークの構築と海外との教育研究連携体制の準備を行う。⑦災害看護学に関わる東北地方との連携の強化と教育研究環境の整備を行う。⑧災害看護学の普及と構成大学の共通理解・共同連携の促進のための公開講座やセミナーを開催する。

① 共同災害看護学専攻の設置に向けての準備および運営組織体「5大学学長会議」、「DNGLプログラム管理運営会議」の設置

共同災害看護学専攻の設置に向けて、高知県立大学・兵庫県立大学・日本赤十字大学は事前相談の書類を提出し、設置届出として認定された。これを受けて、現在届出書類を作成中である。

5大学の学長により構成される「共同教育課程学長会議」を設置し、合意のもと「共同災害看護学専攻」の設置申請に向けて準備を行った。申請大学長および各大学の責任者を含む「DNGLプログラム管理運営会議」および「専攻設置準備委員会」を設置し、これの役割を果たした。この「DNGLプログラム管理運営会議」にて、教員組織、入試、学生の福利厚生や予算及びその実施に関して検討した。

また、「DNGLプログラム管理運営会議」のもと、5大学横断のプロジェクトである「シミュレーションPT」、「遠隔授業開発PT」、「学際連携PT」、「産官学連携PT」、「国際連携PT」、「東北連携PT」、「公開講座・セミナーPT」を立ち上げた。各プロジェクトは5大学の委員の参加により運営し、研究教育開発に関する活動を実施した。プログラムの推進及び研究教育環境の準備を行った。

② 災害看護グローバルリーダー養成プログラム管理センターを設置と学際的実験教育の準備

「災害看護グローバルリーダー養成プログラム管理センター（以下、「センター」という。）」を設置し、5大学のプログラム及び共同教育課程設置に向けての全体的な管理を行っている。また、「センター」内に、種々の生活環境条件が変化したときに、生体負担がどの様に変化するかを捉えることができる生体情報測定、および分析機器を導入し、学際的研究ができるように整備した。

③ 学際的研究教育環境・産官学連携教育環境の準備

災害看護学教育に関する研究教育環境の準備および学際的実験教育の準備に役立つ可能性のある、公的および民間の機関・施設、団体、自治体（地域）、個人について、情報収集調査を行った。把握できた情報を基に、今後、インターン受入や実習先、外部指導者として意義ある対象をより明確にしていくこととする。具体的には、医療機器メーカー（オムロン、日本医療機器）、電子機器メーカー（きんでん）、医療機関（兵庫県立11病院）、高齢者福祉施設、東芝など関連企業および明石市役所や望海地区在宅サービスゾーン協議会と会合を持ち、インターンシップに関する協議を行った。香港理工大学護理学院大学看護学部およびWHO コラボレーティングセンターを訪問し、産官学連携ネットワークについて情報を収集した。各大学の関連学部や関連大学との学際的な教育研究環境を整え始めた。

④ 災害看護シミュレーションラボセンターの設置と本教育課程に必要な教育方法の開発

「災害看護シミュレーションラボセンター（以下、「ラボ」という）」の設置と、本教育課程に必要な教育方法の開発を実施した。ラボを兵庫

県立大学地域ケア開発研究所内に確保し、必要機器の購入等整備を開始した。シミュレーションPT会議（直面会議）を2回開催した。会議では、各大学で実施されるシミュレーション教育のコンテンツを集約し、知識の集積を図ること等のラボの役割機能について検討を開始した。また各大学で検討中のシミュレーション内容を集約し、本構想で育成しようとしている能力との関連性の確認を行った。さらにシミュレーション教育の研究・開発・実践の世界的な先駆的施設である、米国マイアミ大学ゴードン医療教育研究センターでの研修、「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」を視察しラボ環境についての示唆を得た。日本赤十字看護大学にて、災害サイクルの急性期に係るシミュレーション教育の資機材一式を設置すると共に、教育コンテンツの開発を開始、さらに人材育成として国内外のシミュレーション教育セミナーに参加した。東京医科歯科大学でもミナラボ整備に向けた設計・設備購入の計画を一部実施し、サミュエルメリット大学のシミュレーション教育の専門家に教材作成・教育方法の検討について継続的な専門的助言を求め承諾を得ることができた。千葉大学では Harvard Center for Medical Simulations を訪問し、シミュレーション教育の指導方法、事例作成、教育評価等について情報収集・意見交換を行った。

⑤ センターの下での5大学共同ITネットワーク整備と遠隔会議環境等の開発

センターの下で、5大学共同ITネットワークの整備と遠隔会議環境等の開発を行ってきた。遠隔授業方法の開発及び5大学による遠隔授業を可能とするシステムとしてTV会議システムを決定し、一部導入した。また、Learning Management System導入に向けての準備を行ってきた。

遠隔授業開発PTが中心となって、共同ITネットワーク整備と遠隔授業環境等の開発を行ってきた。遠隔授業に関する海外視察も含め、遠隔授業実施教育者や業者との学習会を通し、遠隔授業の進め方やLearning Management Systemの要件等を検討した。

⑥ 学際的なネットワークの構築と海外との教育・研究連携体制の準備

本プログラムの目的であるグローバルリーダーの養成を行う上で、災害看護に関する諸外国との連携には、教育内容の充実の面で、国際的な災害対応を担う組織において、研究・教育フィールドを確保すること、グローバルリーダーとして活躍する人材による教育を行うこと（特別講演やセミナーなどを含む）がある。フィールドワーク確保については、平成24年度に国際赤十字赤新月社連盟・本部（ジュネーブ）、WHOKC（神戸）、スウェーデン赤十字大学関連病院、フィンランド・セイナヨキ応用科学大学などへ出向きインターンシップの運用方法についての討議を行い、必要時協力を得ることについての了解を得ている。また、上記の組織以外にペンシルベニア大学、カリフォルニア大学、ラトガー大学、ハーバード大学、グランモーガン大学、ノーザンブリア大学を訪問し、国際セミナー・シンポジウムの実施、共同研究・連携の可能性について意見交換を行っている。平成25年6月14日に「災害看護学における倫理的課題」として国際セミナーを開催する予定である。

平成25年2月3日には国際セミナー「世界における災害と健康危機への方略」を開催し、WHOKCからペシガン博士、UNICEFの國井博士を招聘した。中国四川大学とは、中国四川大地震被災者の年次的健康状態の把握を継続しており、新たに香港理工大学との災害看護倫理についての共同研究を実施することを提案し、連携の承諾を得ている。

⑦ 災害看護学に関わる東北地方との連携の強化と教育・研究環境の整備

宮城県気仙沼市鹿折地区仮設住宅住民の健康状態の調査と健康支援内容と方法、原発事故で福島県いわき市に避難した浪江町民等で、大震災後の健康課題に関して中長期的視点から、地域住民のニーズに則した支援のあり方を探求した。健康調査や浪江町役場・住民等との協議・話し合いを通じて支援課題について探求した。石巻赤十字病院と大震災発生時における地域中核医療機関の役割と他機関との連携のあり方、その後の病院復興の活動と課題について意見交換会を行った。被災地の人々の健康課題調査への支援を通して、その延長線上にある今後の支援のあり方等を行政・住民などと意見交換を行い、フィールドの拠点づくりを行った。

福島県立医科大学、宮城大学、岩手県立大学、東北大学、日本赤十字秋田看護大学などと連携協力を図り、東日本大震災の災害時支援、復興の現状と支援課題に関する実践及び研究を行った。東北地方を含む被災地の関係者と交流し、今後の研究教育環境づくりに向けたネットワーク形成ができた。石巻赤十字病院、石巻赤十字看護専門学校、そして東北の大学教員なども参加し、意見交換会を実施しながらいわき市などと同等フィールドの拡大・確保に努めた。

⑧災害看護学の普及と構成大学の共通理解・共同連携の促進のための公開講座やセミナー開催

1) 共同企画・運営

- ・グローバル社会に求められる災害看護のリーダーとは、看護科学学会交流集会、平成24年11月
- ・マイアミゴードンセンターを視察、平成25年1月
- ・韓国サイバー大学視察および韓国文科省訪問、平成25年1月
- ・世界における災害と健康危機への方略 国際セミナー、平成25年2月
- ・16th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS)、於タイ、プロモーション活動、平成25年2月

2) 高知県立大学企画・運営

- ・遠隔授業Up To Date、公開セミナー、平成25年1月
- ・ソーシャルメディアの知について、公開セミナー、平成25年2月
- ・21世紀における成功のためのリーダーシップ、公開講座、平成25年2月
- ・eラーニングにおける遠隔授業の設計と教授方法、公開セミナー、平成25年3月

3) 兵庫県立大学企画・運営

- ・Instructional Designに基づくSimulation Planning、公開セミナー、平成24年12月
- ・災害時のコーディネーション、教育セミナー、平成25年2月
- ・シミュレーション教育セミナー、教育セミナー、平成25年3月

4) 日本赤十字看護大学企画・運営

- ・国際教育セミナー～紛争・災害の現状(動向)と看護師の役割、国際教育セミナー、平成25年1月
- ・防災・減災セミナー、公開セミナー、平成25年2月
- ・シミュレーションで災害看護を学ぼう！看護教育現場におけるシミュレーション教育の効果、災害看護教育公開セミナー、平成25年3月

5) 東京医科歯科大学企画・運営

- ・米国における医療制度改革と看護への影響：医療の質と診療報酬、特別講演、平成25年1月
- ・災害エスノグラフィー、公開ワークショップ、平成25年3月
- ・災害看護領域におけるクリティカルケア—米国専門看護師による実践、国際セミナー、平成25年3月

6) 千葉大学企画・運営

- ・共同災害看護学専攻設置に向けたプレ・カンファレンス（セミナー、パネルディスカッション、情報交換会）、平成25年3月